8)特殊荷重

種別

高架水槽 クーリングタワー

エレベーター

フォークリフト

9) 鉄骨製作工場

10)設計用地耐力

場所

仮設厚生棟

■ 十質柱状図

試験No. 1

深さ(m)

GL ▽

1

2

3

4

5

6

9

10

■ 地業工事 地業内容

砕石

○ 上記以外の工場とする。

重量 数

基礎形式 基礎深さ(m)

コンクリート 布基礎

杭

〇 平板載荷試験

土質名

別紙参照

基礎下

基礎下

緩み、ばらつき等がないように、十分締固める。 厚さが300mを超えるときは、300mごとに締固めを行う。

締固めは、ランマー3回突き、振動コンパクター2回締め又は振動ローラー締め程度とし、

捨コンクリートは、設計基準強度 Fc =15 N/mm² 以上とする。

平成 年 月 日

杭先端深さ(m)

-0.85

指定性能評価機関のグレード(○ H ● M ○ R)以上の工場とする。

設計地耐力(kN/m²)

長期 短期

70 140

-9. 25~-17. 25 366. 71 733. 42

● 標準貫入試験 ○ スウェーデン式サウンディング試験

備考

孔内水位(m) GL- m

借 考

50

100

N値

構造概要書

■ 建設地: 京都府舞鶴市字長浜2001番地 ■ 建築物の構造概要 (増築予定 ●無 ○有) 部 位 構 造 種 別 ● 折板 ルーフデッキ 屋根 ○ デッキブレート +コンクリート(山上t = ● デッキブレート +センチュリーボード (仮設厚生棟) 床 ● デッキプレート +コンクリート(山上t= 80) (仮設寮) サイディング○ 角波鉄板○ ALC版 外 壁 ○ 複層断熱パネル ○ サンドイッチパネル ● 石膏ボード○ スチールパテーション○ 間仕切壁/界壁 下地: ● LGS O 木製 柱 • S O RC • S O RC O SRC 小 梁 ● S O RC O SRC 直接基礎(○独立 ●連続 ○べた ○複合) 基 礎 杭基礎 (● 鋼管 OPHC O)Oその他(● 砕石 ○ 再生砕石 ○ 割り石 ○ 砂利 ○ 地盤改良 (○ 深層混合処理工法 ○ 浅層混合処理工法 ○ 地業杭 (○ ○) ○その他 地盤補強用鋼管机 ● 土間コンクリート(t=100) カッター目地 ○ 有り ● 無し フォーク走行の考慮 ○ 有り ● 無し 地中梁と主間の間のコンクリート ○ 有り ● 無し 地中梁と 土間の間の差し筋 ○有り ● 無し 1 階庆性能 〇 床パネル(t =102 合板12、根太90×30@300) ○ 構造スラブ(t=) カッター目地 〇 有り 〇 無し フォーク走行の考慮 〇有り 〇 無し ■ 構造設計条件 計算ルート、地震時層間変形角の制限値γ、架構形式 方 向 計算ルート ア 架 構 形 式 2 1/200 ○ ラーメン ● ブレース Y 方向 2 1/200 ○ ラーメン ● ブレース 2)地震荷重 ・標準せん断力係数(一次設計用) Co=0.2 ・地域係数 Z=1.0 ・地盤種別 第 2 種 ・振動特性係数 Rt=1.0 ・重要度係数 I=1.25 3) + F B 7 (* F ・土圧係数 KA= 地下外壁 KN= ・ 地下水位 GL- m 4) 風荷電 · 速度圧 q=0.6· E· Vo = 1.406 N/m - 地表面组座区分 = E = 1.406 Vo = 32 m/sec 5)積雪荷重 区域 ●一般地域 ○ 多雪地域 ・垂直積雪量 90cm ・単位荷重 ・設計用積雪荷重 長期 1800 N/m 、² 短期 N/m ² (()内は他の短期荷重と組合せる場合 6) 積載荷電 室 名 小 梁 主架構 地 震 仮設厚生棟 2300 2100 1100 仮設寮 1800 1300 600 7) クレーン・ホイスト 荷重 種 別 種 類 容量(kN) 基 数

構造特記仕様書 注記ある場合以外●印の項目を適用する。

■ 地盤改良工事(仮設厚生棟)

改良範囲(mm)	改良深さ(m)	基礎深さ(m)	設計基準強度 (kN/mm ²)	設計支持力)(kN/m²)	
OK DEREMINE (IIII)	QUEARC (III)	金統派で(III)	(kN/mm ²)	長 期	短期	M 2
	GL-2.0~-7.6	-0. 85	1000	70	140	スリーエスG工法

・ 地盤改良に関するセメント 系固化材は、六価クロム溶出量低減型固化材を使用する。 ただし、六価クロム溶出試験を実施し、六価クロム溶出量が環境基準値以下であることを 確認した場合はこの限りではない。

■ 杭工事(仮設寮)

杭 種 別	杭径(mm)	杭先端深さ(m)	******/ \	設計杭支持	力(kN/本)	備老
17L ME 291	40.4宝(IIII)	机元端床e(III)	金製体で(III)	長期	短期	18 -5
STK490	216. 3	GL-17. 25	GL-0. 75	611. 18	1222. 3	G-ECSパイル工法
STK490	216. 3	GL-9. 25	GL-0. 75	366. 71	733. 42	G-ECSパイル工法

- 杭の先端深さは地盤状況などに応じて変更することがある。
- 場所打ちコンクリート 杭の材料はコンクリート 工事 、鉄筋工事の項による。
- 試験杭の位置等は設計図書又は工事監理者の指示による。
- 根固め液及び杭周固定液の管理試験は、試験杭本毎に1回、本杭20本毎に1回とする。

(継手ない場合は、本杭30本毎に1回とする)

_	コン	クリ・	− ト :	L事					
使	用	箇	Яf	コンクリートの 種 類	設計基準 強度 Fc (N/mm ²)	気乾単位 体積重量 (kN/m²)	所 要 スランプ (cm)	所 要 空気量 (%)	
а	基礎			普通	21	23	15	4. 5	
b	土間コン	ンクリー	-	普通	18	23	18	4. 5	
С									

計画供用期間の級: ●短期(18) ○標準(24) ○長期(30)

- ()内数値は、耐久設計基準強度(N/mm²)を示す。 ・セメントの種類 (● 普通ボルトランド・セメント ○
- 組骨材の種類・寸法 (砕石 20) ・混和材料の特記 (● Æ滅水剤、 〇高性能Æ滅水剤、 〇
- 寒中コンクリート の適用期間 (
- ・せき板の材料 (合板、 メッシュ型枠 鋼製型枠)
- 線り混ぜ水 (●上水道水 ○上水道水以外の水 回収水)
- ・単位水量 185kg/m 以下、○ 175kg/m³)以下を標準とする。
- 単位セメント 量 270kg/m3 以上を標準とする。
- ・水セメント 比は、ボルトランド セメント の場合、65パーセント 以下を標準とする。
- 塩化物イオン量: 0.3kg/m²以下
- · 試験 (圧縮強度試験)
- 供試体の採取(構造体のコンクリート強度の推定試験)
- 供試体の採取場所は、工事現場の荷降ろし場所とする。供試体は、コンクリートの 種類が異なるごとに、1日1回以上かつコンクリートの150㎡ 毎又は、その端数に つき1回以上とする。
- 供試体の養生方法は、(標準水中養生 O 現場水中養生 O 現場対かん養生 Oコア)とする。 ■ 内 部 現場水中養生とした場合の圧縮強度(28日)は、材齢28日までの平均気温が20°C以上の場合 <u>屋外</u>部 調合管理強度以上とする。材齢28日までの平均気温が20℃未満の場合は、F c +3N /㎡とする。 ・コンクリート 躯体の養生方法 (●飲水養生、 O
- ・サき板の存置期間
- コンクリート の材齢により、又はコンクリート の圧縮強度により 定められた最小存置期間の
- のちに取り外しを行う。 なお、圧縮強度により定める場合は、コンクリート の試験結果及び安全確認するための資料

'6-60 L	圧相強度により たのも物に	31
により	監督職員の承諾を受ける	

K	~	///		tt 8	* 板			支 柱	
- 1/.	\	部位	基礎、はり	側、柱、壁	スラブ下	、はり下	スラ	はり下	
		さメント 平均気温	早強ポルト ランド セメント	普通ポルト ランド セメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種	早強ポルト ランド セメント	普通ポルト ランドセメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種	早強ポルト ランドセメント	普通ポルト ランドセメント 高炉セメント A 担 シリカセメント A 種	早強ポルト ランドセメント 普通ポルト ランドセメント 高炉セメント A 種 シリカセメント A 種
2	9#	15℃以上	2	3			8	17	28
13	野田	1以3℃	3	5			12	25	28
ľ	щ	0℃以上	5	8	原則と		15	28	28
	コンクリート		E 0.N	/mm²	支柱を外したの	ちに取り外す。	1)	
Ø	コンクリート の圧縮強度		3.01	7 111111			85% 又	100%	

■ 鉄筋工事

材料				
採用	種別	表示	使 用 箇 所	備考
•	SD295A	D10~16	基礎	D16以下
•	SD345	D19	基礎	
0				
0				

注記ある場合以外●印の項目を適用する。

NEE 3											
採用		種	別			使	用	箇	所	備	考
•	重	ね	継	手	基礎					D19以下 (特記なき限り)
0	ガ	ス	圧	接						D22以上 (特記なき限り)
0											

- ・圧接工:公益社団法人 日本鉄筋総手協会の資格証明書を提出の事
- ・圧接部抜取り試験: 同作業班が同一日に施工した圧接箇所ごと(200箇所を越える 時は200箇所ごと)を、1検査ロットとする。 圧接部引張試験=3 本以上/検査ロット

超音波探傷試験=30箇所以上/検査ロット

■ 鉄骨工事

10 47		
種別	使 用 箇 所	備考
SS400	ブレート 類	JI S G3101
SSC400	母屋、つなぎ梁、隅柱	JI S G3350
STKR400	柱、小屋梁	JIS G3466
SNR400B	ブレース	JI S G3138
SN400B	ブレースシート	JIS G3136

・デッキブレート 防錆方法 〇亜鉛メッキ 〇防錆塗装

使用法 ●構造床 ○捨型枠 ○合成スラブ 施工条件 ○単純梁 ●連続梁 ●支保工無し ○支保工有り 配筋(無し

接合部の構造形式 ●高力ボルト (● 支圧接合 ○ 摩擦接合 ○ 引張接合)

申ポルト (● 支圧接合 ○ 強度区分 (● 4.8 ○ 6.8 ○ 10.9)

〇溶接 (〇 工場溶接 〇 現場溶接) Oトルシア形(S10T) ● JI S 系2 種(F10T) 高力ボルト

○ 溶融亜鉛メッキ高力ボルト(F8T) ・アンカーボルト O SR235 O SS400 O SNR400B ● SNR490B

○ABR ○ ABM ○ その他 ・スタッド ボルト JISB 1198「頭付きスタッド」による。

防錆塗装

塗り 回数 採用使用簡所 塗 料 借 考 工場 現場 JIS K 5674 1種 2 JIS K 5674 1種 2

現場溶接部、高力ボルト接合部、ボルト類などは現場タッチアップを行う。 耐火被覆を施す部分は原則として錆止め塗装をしない。

ŧ	妾合部の検査(村	食査結果は後日工事監	理者に報告	す・	ること)	
	検査対象	検査内容	検査率又 社内		ま 検 査 数 第三者機関	備考
	m A 11 3m4m m	超音波探傷試験	9	6	%	72 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15 15
	突合せ溶接部		9	6	%	現場溶接部は、全数検査
	隅肉溶接部	溶接部外観検査	100 9	6	%	
	NAINA VET TOK BID		9	6	%	
			9	6	%	

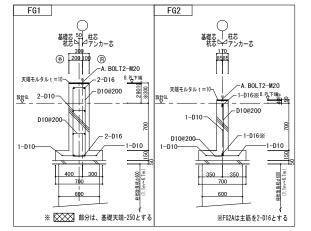
突合せ溶接部の食い違い及び仕口のズレ、アンダーカットについては、国交省告示1464号の 基準を厳守する事。

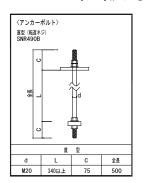
訂正事項	年月日 担 当					^{工事名称} 第二厚生棟ほか	4棟整備工事		受 領 印
		照査	担当					^{組 尺} N.S	
						作成年月日	依頼番号	図面番号 S-01	1
						H26 · 09 · 26	62-5149	3-01	4 月 日

改良体仕様 = は大改良杭 φ600mm スリーエスG工法 GBRC性能証明 第07-21号 改良長:1.1m~6.7m 短期支持力 140kN (X1)(X1)(X2) (X3) (X4) (X5) X6 X7 X8 X9 X10 8900 2000 1800 900 900 1800 1800 1700 90 909090909090 9090 9090 90 9<u>0</u>90 9<u>0</u>90 9<u>0</u>90 9<u>0</u>90 9<u>0</u>90 9 アンカーボ _ ⊿ ^{柱芯} アンカー芯 150 2000 150 FG1 (Y13)-(Y13) FG2 FG2 (Y12) (YI) FG2 FG2 (Y10) FG2 **Y9 Y8** FG2 (7) S FG: Y6) **Y5** FG2 (Y4) **Y3** 土間コンクリート t = 100 ワイヤーメッシュ 6 φ 150角 スタイロフォーム t = 40 防湿シートt = 0.15 FG2 (Y2) **(Y1)** (Y0)-階段基礎 股計GL 2-D13-基礎伏図 基礎使用 鉄筋: SD295A, SD345 D10@200~ 基礎コンクリート強度: 21N/mm² + 28S 91 2-D13-土間コンクリート強度: 18N/mm² + 2sS 91 A. BOLT (SNR490B転造ねじ) ダブルナット止め 定着板付 150 150

(_) :改良体位置を示す

仮設厚生棟





※支持層が傾斜しているため、ボーリング調査位置にて管理トルク値の設定を行い、 改良体施工時のトルク管理にて支持層に到達が確認された位置を改良杭先端レベルとします。

訂正事項	年月日	担当							^{工事名称} 第二厚生棟ほか4棟整備工事		受領印
			照査	1		担当			 図面名称 仮設厚生棟 基礎伏図	縮 R A3=1/200 A1=1/100	
									作成年月日 H26 · 09 · 26 依頼番号 62-5149	図面番号 S-05	年月日

300

仮設寮 【杭芯間隔とへりあきの推奨値】 #t #F Ds (ms) 114, 3 139, 8 165, 2 190, 2 216, 3 267, くい先端予定深度より洗い位置で打ち止めとなる場合には、くい先端以頂 の地様に制御の落ち込みがないことが確実な場合で、くい体に影響がなり ルは、(いた場所を深度まで回転費人させる。異人が開催な場合、または 制造の落ち込みが予想される中間腰の場合は、その位置で打止めとし、 くい頭は設計位置で切断とする。 中間層で振削不可能となり、地盤にN値の落ち込みが予想される場合には マ川原では新から私となっ、の出い環境があったからかってあるもの場合にな くいに迂回転を与えて引きた。アイナガー等に下面側して第三関係な 層を打きな後、再独とさする。アースオーガー等による先行機制は、支援 層予定深度の1.0m程度上部(引接き方向の支持力を適用するくいについ ては30kかつ1.0m上部)とする。 くいも不足の名誉 くい去頭予念深度で、円値が「支持無確認管理値」以下とならない場合 くいを適宜継いで、「支持層管理領」以下になるまで施工する。 ただし、最大施工深さを超える場合には、監理者・設計者と協議の上 平成18年 3月30日 TACP - 0208 (国住物第3215-1号) 接受技術性能認識を同様を分向の施設支持力)(GERO 性能証明 第 11-設定法人 日本経典センター 部 昨天書 (今日後間をくい周線対象型)

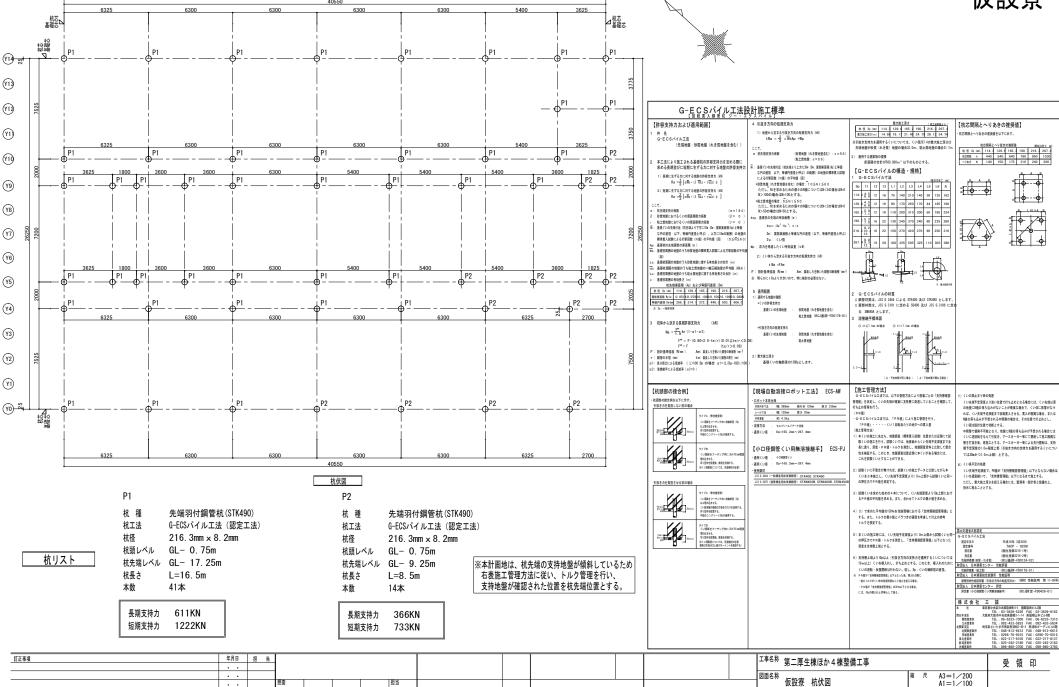
図面番号

62-5149

H26 · 09 · 26

S-11

年 月 日



X24 25]

4

(X2)(X22)(X23)

(X1)

(X12) (X13)

(X3)

(X5) (X6) (X7)(X8)

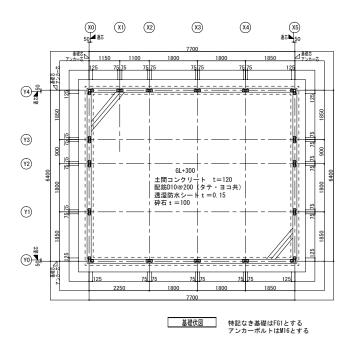
. .

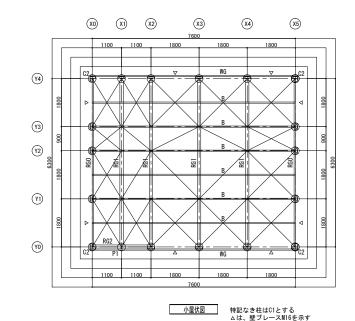
(X9) (X10) (X18)

(X1) (X18) (X19 (X20)

(X14)(X15)

機械室棟

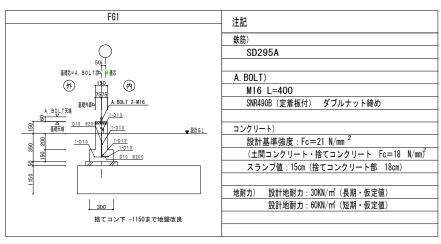




⊤地盤改良(セメント系固化剤による浅層混合処理工法)−

特記なき場合、「建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」 (日本建築センター)による。

- (a) 改良地盤での鉛直支持力 30kN/m2 (長期地耐力)
- (b) 改良体の設計基準強度 改良地盤での鉛直支持力×3kN/m2以上
- (c) 配合量 工法による混合の均一性を確保するため、現場での配合量は 50kN/m2以上とする。
- (d) 試験掘 特記なき場合、本改良に先立って影響の無い箇所にて試験掘を 行う。試験掘深さは改良深さ+1mとし、範囲は1.5m×1.5mとする。
- (e) 改良深さ ※図示による。但し、本改良の改良深さは試験掘の結果により 最終決定とする。改良深さがImを超える場合は2層以上に分けて 改良を行う。
- (f) 改良体の一軸圧縮試験 ・適用しない ・適用する 試験体採取 3箇所 試験により改良体の設計基準強度を確認すること。
- (g) 地盤改良の地業 地盤改良を行った基礎下の地業は捨コンクリート地業とする。



〈アンカー 直型(転造ネ	ボルト〉 ジ)SNR490	В											
→ H → H → H → H → H → H → H → H → H → H													
<u> </u>	 												
d	L	C	全長										
M16	270以上	60	400										

特記なき限り水平ブレースはM12とする

訂正事項	年月日 担 当							エ事名称 第二厚生棟ほか 4 棟整備工事			受 領 印
		1					l	図面名称 は		縮 尺 A3=1/100 A1=1/50	
		照査		担当				世	載室棟 基礎伏図・小屋伏図	A1=1/50	
		1						作成年月日	依賴番号	図面番号 S-21	l . <u>.</u> .
		1						H26	· 09 · 26 62-5149	3-21	年 月 日